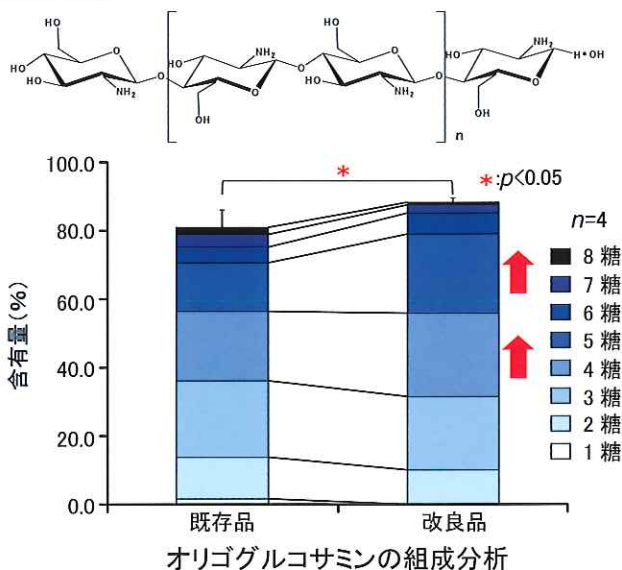


# 新規製造：褐変抑制、高純度『コーヨーオリゴグルコサミン WG』 高重合度『コーヨーオリゴ-N-アセチルグルコサミン』

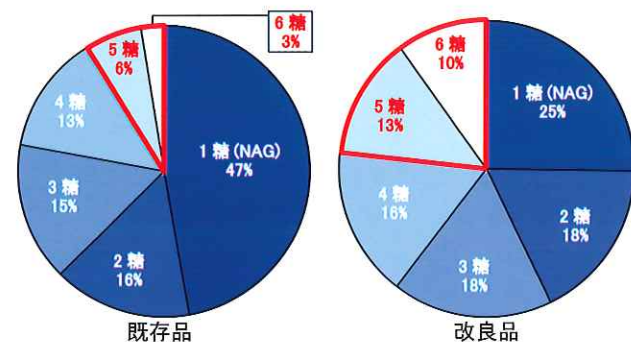
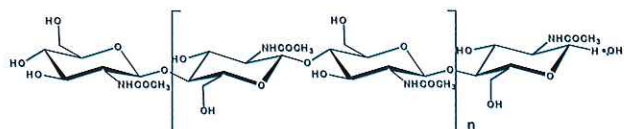
## 褐変抑制、高純度の『コーヨーオリゴグルコサミン WG』

- ・変性を抑える新規製造方法により、褐変を抑制し、高純度化を実現しました。
- ・オリゴグルコサミンは、ヒト試験でNK細胞活性化による免疫賦活作用が確認されています<sup>1)</sup>。
- ・『コーヨーオリゴグルコサミン WG』は、マウス経口投与で腫瘍成長を有意に抑制することが明らかになりました<sup>2)</sup>。



## 高重合度『コーヨーオリゴ-N-アセチルグルコサミン』

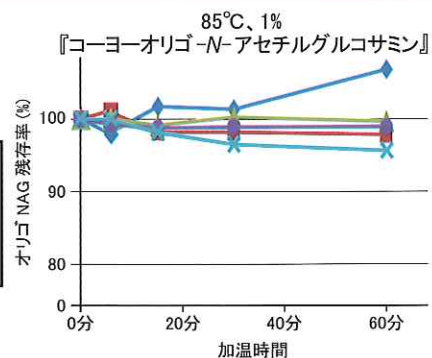
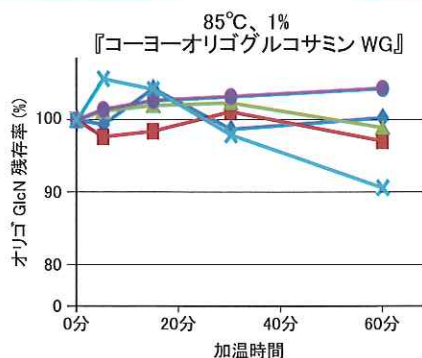
- ・重合度の高いオリゴ-N-アセチルグルコサミンには抗腫瘍活性が認められ、血中白血球の走化性を強く増加させることがマウスで明らかにされています<sup>3)</sup>。
- ・抗腫瘍活性は、特に6糖 (NACOS6) が顕著であるとされています。
- ・『コーヨーオリゴ-N-アセチルグルコサミン』は、マウス経口投与で腫瘍成長を有意に抑制することが明らかになりました<sup>2)</sup>。



※『コーヨーオリゴ-N-アセチルグルコサミン』の組成値は製造ロットにより多少前後致します。

## 溶液の安定性

- ・『コーヨーオリゴグルコサミン WG』の1%溶液は、85°CでpH1 ~ 7で安定であり、pH9では残存率の低下は僅かでした<sup>2)</sup>。
- ・『コーヨーオリゴ-N-アセチルグルコサミン』の1%溶液は、85°CでpH1 ~ 9で安定でした<sup>2)</sup>。



参考文献 1) 梶本修身, 坂本廣司, 三輪輪, 又平芳春, 吉田功, 高橋清武, 高橋文生, 日本臨床栄養学会雑誌 21(1): 41-47, 1999

2) Masuda S, Azuma K, Kurozumi S, Kiyose M, Osaki T, Tsuka T, Itoh N, Imagawa T, Minami S, Satoh K, Okamoto Y, Carbohydrate Polymers 111 (2014) 783-787

3) Suzuki K, Tokoro A, Okawa Y, Suzuki S, Suzuki M, Microbiology and Immunology, 30, 777-787 (1986)



甲陽ケミカル株式会社

http://www.koyochemical.jp

大阪: 〒530-0051 大阪府大阪市北区太融寺町1-17 TEL:06(6365)1666 FAX:06(6365)1757  
東京: 〒110-0005 東京都台東区上野3-17-7 TEL:03(5807)8871 FAX:03(5807)8730  
境港: 〒684-0046 鳥取県境港市市内団地217番地 TEL:0859(45)3086 FAX:0859(45)3087

※形式を問わず、本紙の内容を当社の許可なく改変、複製または転載することを禁じます。